

2013 森林・林業・環境機械展示実演会報告

2013/12/6 イワフジ工業 及川



コマツ様、住友建機様ブース、イワフジのアタッチメントも装着、ニッケン様の高所作業車より撮影

■基本データ

日 時：平成25年11月17～18日

場 所：埼玉県熊谷市妻沼西部工業団地 (株)エイチワン社有地

主 催：埼玉県、一般社団法人林業機械化協会

出展者：77社

出展機：850台

入場者：15,000人 (2日間延人数) 過去最高を更新

■林業機械化協会 伴会長による林業機械の近況

- ①従来の車両系機械に加えて、架線系機械が再評価され、新型機の開発が進展
- ②高性能林業機械の操作に関して、安全衛生教育が制度面で整備される方向
- ③バイオマス発電の本格化に伴い、環境機械の需要増加

■内容報告

- ①過去の展示実演会では無かった二日間の晴天に恵まれ、地理的条件にも恵まれ、過去最大の出展社数に対応するかのようになり、過去最大の入場者数を更新した。国内唯一の林業関連機械の展示実演会であるが、例年にも増してバリエーションに富んだ展示実演内容となった。すべての関係者各位に感謝。
- ②林農林水産大臣、沼田林野庁長官が、視察に訪れた。特に高性能林業機械の普及状況や開発の動向、林野庁施策の進捗などについてご説明し、認識を深めていただいた。
- ③架線系林業機械のタワーヤーダの展示実演が1社（IHI建機様）あり、注目を集めていた。パネル表示2社、内1社のイワフジ工業は、先進的林業機械緊急実証・普及事業の取組で、実証作業優先のため実機を展示できず残念とのこと。次世代林業サミットで提言した次世代タワーヤーダを開発済みであり、その性能や全貌が披露される事を期待するものである。
- ④高性能林業機械の主な機種は、ベースマシンとして油圧ショベルを採用している。国内には、林業専用機械がないと嘆く知識階層の方もいらっしゃいますが、国内のショベルメーカー様は林業機械メーカーとの技術交流を図りながら、先進的林業機械になるべく日々研鑽されている。今回の展示会においては、各社林業専用機械を出展されていた。アタッチメント装着性能向上、専用油圧回路による性能向上、視認性向上による安全確保、林内における火災対策等々。正に日本独自の林業用ベースマシンと呼んでも過言ではない。今後の更なる革新を望みたい。
- ⑤バイオマス発電の関連で、チップパーやリサイクラー関連の出品が増加している。牽引、自走のほかに、車両系の機械が開発され注目されていた。システム構築と採算性の検証が必要と感じる。
- ⑥海外から輸入されている林業機械には、特別目新しいものはなかったが、日本向けに言語を日本語対応させている企業もあり、どの国の運転者にもストレスを与えず対応するという企業姿勢は流石と認識。

■むすび

近年国内森林・林業に対する見方は、木材利用のための川下政策、伐出コスト削減のための高性能林業機械購入への支援などの川上政策に加え、バイオマス発電による木材資源への注目度など今まさに林業業界が注目され、動き始めているという気運はある。あとはこれを進展させること、実績を出し積み上げることだと思う。

その為必要なことは、情報の発信と共有であると考えている。森再事委員会の提言然り、林業機械展示会然り、各種シンポジウム、フォーラムやセミナー然りである。今回の入場者に若い人たちが多かった。一番うれしいことである。来年度 映画「神去なあなあ日常」が上映予定（林野庁応援）。初めて林業が映画になる。硬軟いろいろなチャンネルで情報が発信され、若い就業者が増え、林業が真の業になることを夢見ている。（終）